

平成30年度 さくらんぼ防除暦(改訂版)

【表示されている農薬の使用基準は平成29年11月末現在の登録内容です】

JA佐渡・さくらんぼ倶楽部

回数	散布時期 (生育状態)	主な対象病害虫	10a 散布量 (成木、 手散布)	薬剤名	散布濃度	100% 当薬 量	収穫前 使用時 期	使用 回数	使用上の注意	防除 月日
臨時	休眠期	コスカシバ		ラビキラー乳剤	200倍	500cc	休眠期	1	落葉後～発芽前(休眠期)に使用する。 樹幹及び主枝に十分散布する。	月日
1	3月上旬まで (休眠期)	カイガラムシ類	300	ハーベストオイル	50倍	2L	発芽前	-	・カイガラムシ類の多発園地では必ず散布する。 ・カイガラムシ類の寄生箇所をブラシ等でこすり落とす。 ・ハーベストオイルの連用は樹勢低下を招く場合があるので樹の状態・カイガラムシの発生状況を見ながら散布する。	月日
2	4月中旬 (開花直前)	褐色せん孔病 炭疽病 灰星病	400	オーソサイド水和剤80	800倍	125g	14	5	・樹脂病の患部は削ぎ取り、トップジンMペーストを塗る。 ・展着剤(ネオエスリン10000倍)を加用	月日
3	4月下旬 (落花5日後)	ケムシ類、ハマキムシ類 オウトウショウジョウバエ 灰星病	500	サムコルフロアブル10 スコア顆粒水和剤	2,500倍 2,000倍	40ml 50cc	前日 前日	3 3	・マメコバチの巣群にできるだけかからないように注意し、ハチの活動が終わる夕方に散布する。	月日
4	5月上旬～ 中旬	コスカシバ		スカシバコンL	40～ 100本		-	-	・直接日光が当たらない目通りの高さに設置する。 ・下草の除草に努める。	月日
5	5月中旬	ショウジョウバエ類、カメムシ類、 カイガラムシ類 灰星病、炭疽病、 幼果菌核病	500	スプラサイド水和剤 フルーツセイバー	1,500倍 1,500倍	66g 66cc	7 前日	3 3	・高温時は葉害が生じる恐れがあるため日中の散布を避ける。	月日
6	5月下旬 (着色期)	オウトウショウジョウバエ カメムシ類 灰星病	500	スタークル顆粒水溶剤 パスワード顆粒水和剤	2,000倍 1,500倍	50g 66g	前日 前日	2 2		月日
臨時	5月下旬	ハダニ類	500	ダニサラバフロアブル	2,000倍	50cc	前日	2	・ハダニ類が多発した場合は単用散布する。	月日
7	6月上旬 (収穫直前)	ハダニ類 ショウジョウバエ類 褐色せん孔病、炭疽病、 灰星病、黒斑病、 幼果菌核病	500	テルスターフロアブル ナリアWDG	4,000倍 2,000倍	25cc 50g	前日 前日	2 3	・薬剤散布後24時間経過してから収穫する。	月日
臨時	収穫期	オウトウショウジョウバエ カメムシ類 灰星病、幼果菌核病	500	ダントツ水溶剤 インダーフロアブル	2,000倍 5,000倍	50g 20cc	前日 前日	2 2		月日
臨時	収穫期	ショウジョウバエ類、オウトウ ハマダラミバエ 褐色せん孔病、灰星病、 幼果菌核病	500	スカウトフロアブル ファンタジスタ顆粒水和剤	3,000倍 3,000倍	33cc 33cc	前日 前日	2 3	・収穫期間中はショウジョウバエ、灰星病等に注意し発生が見られる場合は臨時防除を行う。 ・薬剤散布後24時間経過してから収穫する。 ・散布間隔を少なくとも1週間あけるようにする。	月日
臨時	収穫期	オウトウショウジョウバエ カメムシ類 灰星病、炭疽病、 幼果菌核病	500	スタークル顆粒水溶剤 フルーツセイバー	2,000倍 1,500倍	50g 66cc	前日 前日	2 3		月日
8	7月中旬 (収穫直後)	ハダニ類 褐色せん孔病 炭疽病	500	マイトコーネフロアブル チオノックフロアブル	1,000倍 500倍	100cc 200g	14 21	1 5	・前年ハダニ多発園は必ず実施する。 ・ウメシロカイガラムシ多発の場合はコルト顆粒水和剤2,000倍液(前日、3回)を単用散布する。 ・高温時の散布、散布前後の降雨に注意する。	月日
9	7月中旬～ (ビニール 除覆後)	褐色せん孔病 炭疽病	500	チオノックフロアブル	500倍	200g	21	5	・梅雨明け後ハダニが見える場合はダニゲッターフロアブル2,000倍(前日、1回)を単用散布する。 ・高温時の散布、散布前後の降雨に注意する。	月日
10	8月中旬～ 下旬	せん孔病	500	オキシラン水和剤	600倍	166g	収穫終了 後～落葉 期まで	3	高温時の散布、散布前後の降雨に注意する。	月日
臨時	8月	ハダニ類	500	コロマイト乳剤	1,000倍	100cc	7	1	※ダニ剤は同一系統のものは連用しないこと。	月日
臨時	9月上旬～ 中旬	褐色せん孔病 灰星病 炭疽病	500	オーソサイド水和剤80	800倍	125g	14	5		月日

- ※ 農薬の使用に当たっては必ず薬剤の裏面ラベルを確認し、使用できるかどうかを確かめてから行ってください。
- ※ 農薬の登録外使用は法律で禁止されています。上記以外の農薬使用についてはJA、農業普及指導センターにご相談ください。
- ※ 4月中旬から収穫期は灰星病の重点防除時期です。丁寧に散布すると共に、罹病果は園外へ持ち出しましょう。
- ※ 防除は生育や病害虫の発生状況に注意して適期におこないましょう。
- ※ 園地環境(防風樹の整備・草刈りの徹底)をよくしましょう。
- ※ 散布作業はマスク、手袋等安全防除衣を着用するとともに、無風の涼しい日に実施しましょう。
- ※ 薬剤混用の順序 水 → (展着剤) → 乳剤 → フロアブル剤 → 水和剤 ※殺虫剤→殺菌剤の順を基本とする。
- ※ 生産履歴記帳の一環として、農薬散布実施日を防除月日欄に記入してください。
- ※ 周囲作物への農薬飛散防止に努めましょう。(さくらんぼ以外に農薬がかからないよう注意しましょう)